

基礎的財政収支の黒字化目標 自民2回生「撤回を」提言へ

自民党の当選2回の衆院議員が、2020年度の基礎的財政収支（プライマリバランス＝PB）黒字化目標の撤回を求める提言をまとめることが分かった。経済成長を優先し、PB赤字を気にせず公共事業や教育分野の歳出を増やすべきだと訴える。19年10月に予定する10％への消費増税の凍結や教育国債の創設も盛り込んだ。

2回生議員でつくる日本の未来を考
える勉強会（代表呼びかけ人・安藤裕
衆院議員）が7月初めに提言をまとめ、
首相官邸と同党執行部に申し入れる。

これまでに2回生約100人のうち27人の賛同を得たという。提言では、民間投資を補う財政出動を絞れば経済が低迷し、税収減で「財政がかえって悪くなる」と指摘する。PB黒字化目標の代わりに、毎年度の当初予算の増額幅を2兆～3兆円に抑えることを目安にすべきだと記す。積極的に国債を活用することも主張する。教育費の負担軽減に充てる教育国債の発行も「許容される」と明記する。消費税については増税凍結だけでなく「5％への減税も視野に入れるべきだ」と提案する。